

地域通貨を媒介として地域住民と商店街の交流を促進

## 築町商店街振興組合

機関名	築町商店街振興組合		
所在地	福岡県大牟田市築町2-9		
電話番号	0944-57-1290		
地域概要	(1)管内人口 136千人	(2)管内商店街数 22商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 1商店街	(2)会員数 34商店	
	(3)空店舗率 7.9%	(4)大型店空き店舗数 0店	
商店街の類型	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

### 【事業名と実施年度】

平成15年度 コミュニティ施設活用商店街活性化事業（複合施設）

- ・地域通貨事業
- ・活動拠点整備事業

総事業費

3,305千円

### 【事業実施内容】

#### 1. 背景

大牟田市は北緯33度、東経130度に位置する総面積81.55平方キロメートル、人口約14万人のまちである。東には三池山、西に有明海を望む九州の中心に位置しており、石炭産業を中心とした鉱工業都市として発展してきたが、平成9年にはまちの発展の礎であった三池炭鉱が百有余年に及ぶ歴史に幕を閉じた。これにより地域社会に影響がでているのは否めない状況にある。近年の人口減少、高齢化、商業機能の低下などに見られるように、中心地区商店街の空洞化が顕著になりつつある。

このような状況の中、平成13年に築町商店街に「街かど福祉 人の駅よらんかん」が開設されたことにより、高齢者や障がい者などこれまで商店街とは関係の薄かった人達の来街が多くなり、交流も生まれてきている。平成13年度に大牟田商工会議所で策定された「大牟田市中心商業ビジョン」や平成

15年度に大牟田市で策定された「大牟田市中心市街地活性化基本計画」においても、商業機能をはじめとする様々な機能の導入や市民参加・地域コミュニティ等によるまちづくり



大牟田市の位置

(大牟田商工会議所HPより)

が掲げられており、築町商店街においても本事業に取り組むことを通して商店街の活性化を図ることとした。

## 2. 事業内容

地域通貨「コール」を活用した本事業を実施することによって、商店街に商業機能だけでなく、福祉や教育などの機能を充実させ、市民交流や地域コミュニティを育み、厚みのあるまちづくりを推進するとともに、商店街と市民との関わりを深めていくことで、いつまでも愛される商店街として、繁栄し続けていくことを目的とした。



築町商店街の様子

### (1) 地域通貨活動拠点「こーるかん」の整備

築町商店街内の空き店舗を利用して、地域通貨「コール」事業の活動拠点「こーるかん」を整備した。「こーるかん」では、子育て支援事業や学習の場提供事業を実施した。また、「こーるかん」の利用にあわせて、隣接する築町公園も地域の公園として積極的に活用した。



「こーるかん」の様子

### (2) 地域通貨「コール」を活用した事業

「コール」は、大牟田市を中心に使用することができる地域通貨で、目安として「1 コール＝約 100 円、約 10 分のサービス」と交換することができる。コール会員は、サービス内容が書いてある「サービス掲示板」の中から希望のサービスを見つけてサービスを受け、コール通帳やコール紙幣を使って「コール」のやり取りをする仕組みとなっている。

「コール」を活用した事業として、子育て支援事業（子どもの時間・子育て相談）と、学習の場提供事業（夜の寺子屋）を立ち上げた。会員は、商店街の美化運動や花苗の植栽等に参加して「コール」を獲得できる一方、「コール」を使って学習の場提供事業等に参加できる他、「こーるかん」スペースの利用（市民サロン・花クラブ等）ができる。

「コール」は、商店街をはじめ、大牟田市内で基本的に自由に流通しており、「こーるか

ん」事務局では、平成 15 年度の事業で約 750 コールを発行し、550 コールを回収した。

### ①商店街の美化運動や花苗の植栽

美化運動や花苗の植栽活動を月に 1 回程度実施し、参加者に「コール」を 2 コール発行、延べ 200 人が参加した。

### ②イルミネーションの取り付け・撤去

12 月から 1 月にかけて商店街（国道 208）を彩るイルミネーションの取り付け及び撤去作業を実施し、参加者に「コール」を 5 コール発行、約 50 人が参加した。

### ③「いきいきふれ愛祭」の開催

10 月 25～26 日に中心商店街全体で福祉関係団体と連携して、タウンモビリティを目的とした「いきいきふれ愛祭」を実施した。参加した高齢者や障害者が、商店街の植栽や美化を手伝い、商店街が「コール」を発行し、参加者は獲得した「コール」でバザーに参加するなどした。2 日間で「コール」体験に約 150 人が参加し、約 300 コールを発行、330 コールを回収した。

### ④クリスマスイベント

12 月 23 日にクリスマスイベントとして音楽のミニコンサートを実施した。参加した小学生には、「コール体験」として合唱を披露してもらい、お礼に「コール」を発行し、その「コール」でゲームに参加したり豚汁や飲み物の提供を受けたりできるようにした。イベントには約 200 人の参加者があり、イルミネーションの取り付けや美化運動で約 200 コールを発行、回収した。

### ⑤子育て支援事業

子どもが安心して遊べる街中スペースとして、土曜日休校の子どもたちのために「こーるかん」を開放し、有資格者のボランティアが対応した。また、子ども達は、子育ての時間内に植栽や掃除等の手伝いをすることで、「コール」を取得し、子どもの時間の利用料や商店街のイベント等で使えるようにした。この事業には 1 回 1 コールで参加でき、延べ参加者数は 150 人であった。

### ⑥学習の場提供事業

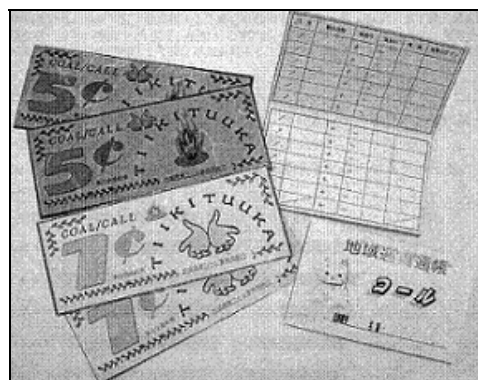
学習の場提供事業として、毎週水曜日に高校教師のボランティアによる指導のもと、中高生や一般を対象にした「夜の寺子屋」を開設した。この事業には 1 回 2 コールで参加でき、延べ参加者数は 25 人であった。

### ⑦親子体験教室

親子体験教室として、15 年 12 月にレモン狩りを、16 年 3 月に土筆摘みを実施した。親子体験教室には 2 コールで参加でき、それぞれ 10 人が参加した。

### ⑧パソコン教室

平成 16 年 3 月にパソコン教室を立ち上げ、毎週月曜日に開講した。2 コールで参加



地域通貨「コール」および地域通貨通帳

でき、3名が受講した。

⑨十日市でのPRブースの設置

中心商店街で毎月10日に行われる十日市において、築町商店街内に「コール」が使えるブースを設置し、「コール」を体験してもらうとともに、来街者に対してのPRを実施した。

⑩安心CALL事業

「NPO法人よかよかネットワーク」が実施している生きがい活動支援通所事業の一環として、「よらんかん」（独居高齢者を対象としたデイサービス事業を提供）の利用者約20人を対象に電話での安否確認を行った。

⑪「こーるかん」スペースの貸し出し

サークル活動での会合などの際に「こーるかん」を貸し出し、母親グループの会合、市民サロン、花クラブ等、15回の利用があった。

⑫「コール」による買い物体験事業

築町商店街の数店舗で実験的に「1コール=100円」で買い物ができるようにした。

【 効 果 】

1. 来街者の行動

「こーるかん」を拠点に地域通貨「コール」を循環させることで、学生から高齢者まで幅広い層の来街を促すことができた。

2. 地域コミュニティの形成

地域通貨「コール」を活用した事業を幅広く展開していくことによって、築町商店街を舞台に人々の交流が促進され、地域コミュニティの形成が促されるなど、地域住民と商店街のかかわりが深まりつつある。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

・事業の合意形成

商店街と運営母体であるNPOとの間の連携を深めることで活動をさらに広めることが可能となるとともに地域住民への認知度もアップする。この観点から、事業を実施していく上で関係者の合意形成を図っていくことが今後の課題となると考えている。

【 事 業 の 実 施 ポ イ ン ト 】

事業に取り組む最終目標を明確にし、組合員全体に浸透させておく必要がある。事業に取り組むこと自体が目的なのか、手段として取り組むのかを見失わないようにすることが重要である。

【 関 連 U R L 】

地域通貨コール <http://call-oomuta.hp.infoseek.co.jp/>